

第2回 仙台市総合計画審議会都市の魅力部会議事録

日 時	平成22年 8月18日（水） 18：30～20：30
会 場	仙台市役所 2階 第7委員会室
出席委員	石川建治委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、大滝精一委員、岡本あき子委員、小野田泰明委員、菅井邦明委員、鈴木勇治委員、高野秀策委員、西大立目祥子委員、増田聡委員、間庭洋委員、宮原育子委員 [13名]
欠席委員	阿部初子委員、柳井雅也委員 [2名]
事務局	山内企画調整局長、大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹、柳津総合計画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 基本計画（中間案）について (2) その他 3 閉会
配付資料	1 仙台市基本計画（中間案）第1章 総論・第2章 重点的な取り組み 2 仙台市基本計画（中間案）第3章 分野別計画 3 仙台市基本計画（中間案）第5章 総合計画の推進に向けて 4 基本構想・基本計画の全体構造

1 開会

宮原育子部会長

それでは、時間になりましたので始めさせていただきます。

皆さんおばんでございます。

前は7月13日にメディアテークで大変オープンな形で市民の方にも参加いただきながら、都市の魅力部会を進めさせていただきましたが、今日は第2回ということでこれから部会を始めたいと思います。

最初に、本日の議事録の署名委員を指名したいと思います。前は、阿部委員にお願いしましたが、五十音順で次の石川委員にお願いしてよろしいですか。

石川建治委員

はい、分かりました。

宮原育子部会長

ありがとうございます。それではお願いいたします。

続いて議事に入ります前に、定足数等の確認を行います。事務局からご報告お願いします。

梅内総合計画課長

それではご報告いたします。

本日の出席者でございますけれども、現在15名中10人の委員の方にご出席をいただいております。また、鈴木委員、大草委員から遅れて参加されるとのご連絡をいただいております。定足数を満たしていることをご報告させていただきます。

続きまして資料の確認をさせていただきます。お座席の方に、座席表、次第、資料一覧表、資料1～4、参考資料1～3、本日追加資料と書いてある日程のスケジュールのものが追加になっておりますが、こちらが本日の資料一式になります。また前回までの資料をつづりましたファイルを置かせていただいております。

事前に郵送した資料がございますが、暫定版ということで、その後字句の訂正が入っておりますので、本日はお席に置かせていただきました封筒の資料をお持ち帰りいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2 議事

(1) 基本計画（中間案）について

宮原育子部会長

ありがとうございました。

それでは、本日の議事に入ります。

本日の議題は次第のとおりで、基本計画（中間案）についてです。本日の会議で、この部会での意見をいったん取りまとめまして、27日の審議会で報告することとなっております。

始めに、総合計画の策定作業の中での中間案の位置づけや、それから本日のこの部会のミッションをはっきりさせることが大事かと思ひまして、この点につきまして事務局から説明をお願いいたします。

梅内総合計画課長

本日追加資料としてお配りしました、審議会日程（案）をご覧ください。

本日は都市の魅力部会を、明日は市民の暮らし部会を開きまして、基本構想・基本計画（中間案）の審議を行います。基本構想につきましては、先日起草委員会を開きまして概要が確定しておりますので、本日参考資料としてお出ししているものでございます。この部会の意見を踏まえまして、来週金曜日に第5回審議会を開催し、基本構想・基本計画（中間案）を決定してまいります。

中間案はその下に箱書きがありますけれども、フィールドワーク型ワークショップ、こちらにも審議会の委員のうち、何名かの方に大変ご協力いただくものでございます。そのほかに、市民の皆様に対するパブリックコメント、各界各層の有識者の方に中間案をお送りして意見を伺う、500名程度を予定しておりますけれども、有識者調査、そのほかに、9月から10月にちょうど国勢調査がございますので間が空くんですけれども、9月の下旬と10月の下旬という形で市内全12か所で行う区民意見交換会、そして10月10日にシンポジウムを開いてまいります。そのほか、9月議会での市議会のご意見等を踏まえ

まして、中間案について多様なご意見をいただきたいと思います。と思っています。

これらを踏まえまして、10月25日に第3回部会、11月中旬に第4回部会を開きまして、中間案に対する修正を加えてまいりたいと思っています。11月下旬の第6回審議会におきまして中間案の見直しを行います。その後調整を加えまして、1月中旬に答申案をご決定いただき、下旬に答申をいただきたいと思います。と思っています。

本日ご議論いただきます中間案につきましては、このように市民の意見を広くいただくために、とりあえずの形でまとめるということが中心になりますので、その旨でのご審議をお願いしたいと思っています。

よろしくお願いいたします。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

ただ今事務局からご説明がありましたとおり、この部会以降このような予定を進めていくということで、今回は特に中間案に関しまして市民の方々にパブリックコメントをいただいたり、それから区民意見交換会等で示すたたき台になるものを27日までに一応決めたいということになりますので、皆さんの方から今日は特に都市の魅力部会の中のいろいろな意見、集中的に意見交換できたらと思っています。

今日は始めに、資料1の「第1章 総論」とそれから「第2章 重点的な取り組み」につきまして、まず事務局からご説明いただきまして、本部会は都市の魅力部会ということなので、今日は特に第3章の後半部分につきまして、皆さんからいろいろご意見をいただきたいと思います。と思っています。

それではまず、資料1につきまして説明をお願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは資料の説明をさせていただきます。順番が前後いたしますけれども、最初に資料1と参考資料3、仙台21プランの振り返りをお手元に用意いただきたいと思います。

最初に、21プランの振り返りについてご説明申し上げます。今回ご議論いただいております新総合計画は、現在今年度末までの計画期間といたしまして、仙台21プランを受けて、これに続く仙台市の今後10年間の基本的な方向を示すものでございます。これにあたりまして、第1回審議会の21プランの実施期間中におけます各種の指標について、資料を提出しているところでございますけれども、中間案を出すにあたりまして、市民の皆様にも21プランの振り返りをご説明したいと思いつくったものでございます。

一枚表紙をお開きください。21プランでございますけれども、基本構想で「やすらぐまち」、「うるおう杜」、「にぎわう都」、「かがやく人」の都市像を掲げまして、市民協働ですとかコンパクトシティなどの視点を入れて、21世紀の仙台の基本的な方向性をつくってきたところでございます。その下に書いてございますように、各種のインフラ整備ですとか、百年の杜づくり、市民主導でのイベントの高まり、各種の福祉施策などを講じてきましたが、これによりまして21プランの期間内におきましては、基礎的な都市基盤の整備はほぼ完了したものであると思っていますし、念願でございました地下鉄東

西線につきましては、平成27年度の開業に向けて着実に工事が進んでおります。今後厳しい財政状況を踏まえますと、これから同じように投資を続けていくことがなかなか難しい状況になってまいりますので、少子高齢化と地域課題の多様化・複雑化に対応しながら、市民と共に取組を進めていく必要があると思っております。

指標のところを簡単に見てまいりたいと思います。関連の部分で12ページをお開きください。こちらの部会に係る指標を各種掲げてございます。杜の都という形で平成10年度の21プランの開始年度から、現在までの各種の指標の推移を12ページ以降にお示ししているものでございます。

都市公園数の増加、またごみ排出量につきましては市民の意識の高まりですとか、100万人のごみ減量大作戦、また有料化といったような要素から、平成10年度の1,277グラムから972グラムという形で、大変大きな減量に市民の皆様と共に進んできたところでございます。リサイクル率につきましても、30パーセント弱ということでもかなり率が高まってきたことが分かるかと思えます。

14ページをご覧ください。仙台港及び仙台港に通じます高速道路網の整備が進みまして、コンテナ取扱量が大幅に伸びております。一方、仙台空港乗降客数という意味では、路線の廃止等もございまして、横ばい、やや下がっている状況でございます。高速道路網の整備を受けまして、高速バスの運行人員数が大幅に伸び、また宿泊客数や国際会議開催件数等が伸びております。景気低迷の影響が大きく出まして、平成10年度と比べまして残念ながら市内総生産や事業所数について、減少が生じているところでございます。

16ページ、17ページでございます。区画整理、住宅数共に順調にこの間伸びを示してまいりました。また、公共交通の利用者数という意味では、現在公共交通の利用促進というのが私どもの大きな課題でございますが、現実にはやや減っている状況でございます。駅前広場につきましては、地下鉄やＪＲの新駅の開設等がございまして、駐輪場の整備と並びましてかなり改善を進めてきております。

18ページ、19ページでございます。学都の部分でございますけれども、少子化は進んでおりますが、本市の大学生数等は順調に伸びてきております。一方児童生徒数等は、少子化の影響を受けまして減少を見せております。支援学級等の充実を図ったと共に、生涯学習の取組を進めておりますので、メディアテーク等の参加者数が伸びているところでございます。

20ページ、21ページでございます。市民主導の大規模イベントの入込数でございますけれども、平成13年度と比べましてかなり伸びを見せております。また、この間プロスポーツ、楽天の誕生等がございまして大幅に増えております。都市経営の面で見ますと、平成10年と比べまして、市税及び地方交付税交付金につきまして、大幅な減少を見せております。本市の歳出ベースで見ますと、平成10年と平成20年を比べまして決算額はほぼ同額、約4千億円程度でございますが、当初平成10年に最大の構成費でございました投資的経費が31パーセントから大幅に減りまして、一方扶助費は7.6パーセントだったものが倍の13.7パーセントということで、高齢化等を受けまして福祉関係費用が増加傾向にあることがお分かりいただけるかと思えます。職員数につきましては着実な行革の推進がございまして、1万人を割り込んでいるところでございます。

以上のような振り返りを受けまして、これからの方向性を決めていく基本計画という形でまとめてございます。

資料1をご覧ください。1ページの人口指標等につきましては、前回ご説明したものと同じでございます。2ページの「基本的な考え方」のところでございますけれども、先程の振り返りにありましたように財政状況が厳しさを増しておりますし、そのほかに人口・環境・経済等の制約の高まりがございます。このような認識のもと、本計画期間を「成熟社会における変革の期間」と位置づけて、未来へつなぐさまざまな取組を進めたいと考えております。

その中で現計画21プランでは取り上げていなかった「重点的な取組み」ということを一章をおこしまして、分野別計画の前にこれを置きたいと考えてございます。「重点的な取組み」の中では、各種の厳しさを踏まえて、大きく都市経営面で重点的な取組を掲げたことが今回の特徴かと考えております。3ページのところに視点を入っております。こちらにつきましては前回との比較といった視点を掲げたつもりでございます。

5ページでございます。「重点政策」でございますが、こちら四つの都市像に合わせまして、四つの重点政策を取り上げました。一つが「ひと・まちが輝く『ミュージアム都市』づくり」でございます。仙台の地域資源を掘り起こし、仙台の学都としての蓄積を生かして、市民が学びに親しむような政策を打ちたいと思っております。学びの楽しさに満ちた魅力的な都市「ミュージアム都市」を目指して仙台の都市ブランドを高めてまいりたいと考えております。その中では にございます地域にある多様な学びの素材の創出、 これを生かすための環境づくり。この中では6ページの冒頭にございます、博物館等の連携を図ります「仙台宮城ミュージアムアライアンス事業」というものの開始しておりますが、こちらを活性化させたいと思っております。また、これによって発掘されました資源をつなげ「知る楽しみ」をキーワードとした「学びツーリズム」のようなものを促進できないかと考えています。長崎さるくのような、着地型の観光といったものにつなげていくことができないかということを考えているところでございます。これらを仙台の都市ブランドとして高め、学都仙台の新しい魅力の創出を図ってまいりたいと考えているところでございます。

(2)でございますが、少子高齢化時代でございますので、この中で地域での共助といたしますか、支え合いの社会づくりを進めたいと考えています。 のところに高齢時代の健康な暮らしづくり、高齢になっても安心して安全に暮らせるような地域社会の基盤をつくりたいと考えております。 のところで子育て応援社会づくりでございます。仙台の未来を担う子供たちを、安心して生み育てられる環境を整備してまいりたいと考えております。保育所の整備でございますとか、保育環境の整備を進めてまいりたいと考えているところでございます。

(3)、(4)が本部会に最も関係のあるところだと思います。(3)が「持続可能な都市づくり」、前の部会でもお示ししましたグランドデザインをブラッシュアップしたものでございます。8ページでございますが、本市の地勢を生かしまして「自然環境保全ゾーン」、「集落・里山・田園ゾーン」、「市街地ゾーン」と区域を分けまして、市街地の拡大を抑制しながら、機能集約型の都市構造へ向けた取組を進めてまいりたい

と思っております。ウ)の一番下、8ページ一番下の段落でございますけれども、郊外区域で地域コミュニティに影響が出るような高齢化とか人口減少が進んでいるところがございますので、そういったところにも適切な配慮をしながら、一方で都市機能の集約を進める必要があると考えているところでございます。9ページ、都心・拠点の形成でございます。「都心」は東北を支える仙台の中心でございますので、こちらの都市機能の強化、そして都心と機能分担をした拠点づくりといったものが、重要と考えてございます。また、都市機能集約にあたりまして、それを軸となる都市軸を形成したいと思っております。地下鉄南北線、開業いたします東西線で十文字型の都市軸を形成したいと考えております。10ページをご覧ください。前回の部会でお示した図をJRや道路網といったところを少し見やすく整理しております。この内容での都市空間構想に基づきまして、都市交通の方針を10ページ、11ページに示しているところでございます。鉄軌道、鉄道を基軸とした都市交通、公共交通の構築に努めてまいりたいと考えているものでございます。

12ページでございます。「成熟社会に都市が輝く賑わい・活力づくり」でございます。成熟社会にありましても、東北の中核であります仙台の市民生活の基盤であります、経済や雇用をしっかりと維持していくことが重要と考えております。そのため にあります「中小企業の活力向上」、 にあります「新たな成長産業の創成支援」、そして にございます「投資と交流人口の拡大」を図ってまいりたいと考えているところでございます。

この四つの都市像に基づく重点政策としまして、都市経営方針、15ページ以下を重点としております。財政の厳しさが増す中、また、人口減少や少子高齢化といった中で、さまざまな地域課題に対応していくために、市役所の都市経営の進め方について見直しが必要と考え、四つの経営方針を掲げたものでございます。

一番目、前回の部会でもご説明しましたが「きめ細かな地域政策の推進」を図ってまいります。地域の市民の皆様を主体とした地域づくりの推進、そのために区役所をはじめとする体制の強化が必要だと考えているものでございます。

「(2)未来を創る市民力の育成と新しい市民協働」でございます。基本構想でも大きなものとして取り上げております市民力の強化、市民参画の醸成といったものをこちらにうたっているところでございます。この都市経営の点でいう市民力の定義が必要だと考えまして、15ページから16ページ、16ページの冒頭のところでございますけれども、「さまざまな主体が『都市や地域における課題の解決や魅力の創出に自ら取り組もうとする市民の力』」をここでいう市民力と定義いたしまして、このような市民力を支える仕組み、また市民力を広げる仕組みづくりを進めてまいりたいと考えているものでございます。

17ページ「公共施設の経営改革」でございます。仙台21プランの振り返りでもご覧いただきましたけれども、さまざまなインフラ整備を進めてまいりましたが、それらの更新時期が到来しておりまして、これらを中長期的な視点で計画的に詰めていくことによりまして、市民生活の安全安心を図ってまいりたいと考えているものでございます。

18ページでございます。都市経営の最後でございますけれども、地方分権の推進と広

域連携や、効率的な行財政運営、市役所の自己変革によりまして地域の時代に対応してまいりたいと考える四つ目の柱としているところでございます。

長くなりましたけれども、資料1と振り返りのご説明でございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

今のご説明、いろいろいただきましたけれども、資料4に基本構想・基本計画の全体構造がございます。前回の部会でもご説明をいただいておりますけれども、皆さんから特に、今回は特に人口や総論のところ等と重点的な取り組みにつきましてもご意見をいただいておりますので、そういったものを反映させながら、そして尚かつ仙台21プランでできたことできなかったことを踏まえながら、今この基本計画を策定しているというご説明になります。今の説明につきまして、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。よろしいですか。

では、岡本委員をお願いします。

岡本あき子委員

データの確認も含めてなんですけど、21プランの振り返りの中で、6ページ目に従業者数（国勢調査）あるいはその上の都市圏人口ということで、21プラン推計と出ておりますが、これは現実に則した推計ということになるのかと。現実とフレームは違うと思うので、逆に平成17年以降、国勢調査がないので難しいのかもしれないですけども、より直近のデータというのが、国勢調査にはなくてもより現実的な数値が出せないかと思います。何かこれだとちょっと期待を持てるような見方になっちゃうので、それが一個。

後は、16ページの公共交通利用者数なんですけれども、地下鉄がここ10年で減っているというのが、経済効果によるものと判断してよかったのかという、数字上の確認です。

今、ご説明ありました基本計画の案の方も伺いたいと思うのですが、一つは重点政策の中で「ミュージアム都市」という言葉がメインで出てくると思うんですが、なかなかやっぱり「ミュージアム都市」という言葉に対して同じ定義というか、同じ考え方でまとまりきれていない、市民の皆さんからもよく聞かれて、ちょっと具体的な補足が必要なのかなと思っています。私自身は学ぶだけでなく、その力を発揮できるような、その場でつながって初めて「ミュージアム都市」という形の実現なのかなと思っています。いるんですが、ちょっとこの今日ご説明いただいた中身では、知る楽しみ、学ぶということによってちょっとある意味目的を達成するようなニュアンスに私自身は受け止めてしまったので、少し補足と目的について、できればその力をまちづくりに最大限発揮してもらうということを目的とするということをやりたいなと思っています。

後13ページに「商都」ということで、商店街の位置づけがあるんですけども、これが個人的な感想かもしれないんですが、私たちの新たな成長産業という括りの中で、商都という位置づけが果たして正しいのだろうかというような。私自身はどちらかというと商店街の皆さんのご努力を維持しつつ、更にブラッシュアップできるのもあるという

位置づけなのかなと思って、ちょっと逆に余りものすごく発展をしていく要素をここ10年で商店街について見えるというよりは、支援をしながらきちんと維持をして賑わいの核になっていただきたいというものなのかなと受け止めましたので、ご説明に対する感想を含めて。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

まず一点は21プランの数値の件につきましてお願いします。

梅内総合計画課長

ご質問のありました、21プランの振り返りの6ページにございます数値の関係でございます。こちらの21プラン推計につきましては、確かに誤解を生みやすいのかなと思っていますが、21プラン策定時に推計した平成22年、21プランの期末での推計でございます。例えば、人口におきましては21プランでは22年度末を112万1000人と想定しておりますので、現状としましては従業者数等でも17年国調で少し落ち込んでおりますので、112万人に至らないように、こちらの方も当時の推計からはかなり下回る形になるかと思っています。従業者数につきましては、国勢調査以外に、具体的なデータのとり様がかなり難しいということもございまして、今年度国勢調査年でございますので、年度が終わればそういったものがお出しできるかと思うのですが、現在はちょっとこの推計を出すのは難しいところでございます。

昼間人口につきましては、現在お示ししました資料1の2ページのところに、夜間人口と並んで昼間人口、それと仙台都市圏での人口の推計を載せてございます。基本的には仙台の夜間人口と昼間人口、都市圏人口というのが何割増しという形で連動するというのが過去のデータから明らかでございますので、カーブにつきましては基本的にはかなり似たカーブを描くのではないかという推計でございます。

21プランの振り返りの16ページの地下鉄の利用でございますけれども、交通局の分析でも経済的な要因が一つ挙げられておりますが、それにつきましても東西線等の事もございますし、バスの地下鉄結節との改善によりまして、今後こういうものを改善していきたいと思っているところでございます。

以上でございます。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

それから資料1の重点政策、第2章5ページになりますか、まず(1)の「ひと・まちが輝く『ミュージアム都市』」のこの言葉について少し馴染まないという、もう少しちゃんと意味を補足するべきではというご意見がありました。いかがでしょうか。

梅内総合計画課長

ご指摘のとおりかと思います。学ぶこと自体は目的も交じるかと思いますが、

究極的には学ぶことによって、市民の皆様が自らの個性を発揮して、よりまちづくりなり自分の個性を生かした生活ができるということが基本でございますので、そういったことを認識するような環境をつくるというのが行政の大事な役割かと思っております。行政にできるといいますか、行政と市民が一体となって環境をつくるところにウエイトをおきましたので、そういう意味で「学び」を少し強調しているところはございます。その後、その環境を使って、市民の皆様が学びによって新たな力を得たりということで、委員のご指摘のような方向に向かうことが望ましいと考えてところでございます。この辺の確認につきましては、ご意見を踏まえて今後検討してみたいと思います。

宮原育子部会長

続きまして13ページになりますね。新たな成長産業の創成支援の中の、商都仙台のとらえ方につきましてということで。

梅内総合計画課長

中心商店街を始め、商店街についてのご意見でございます。中心商店街につきましては、仙台の場合にはシャッター通りというようなことはございませんけれども、日曜等の歩行者等が減少しているというデータもあることが事実でございます。現在、私どもの経済局、そして商工会議所、商店街を中心に商店街プランというものを策定中でございまして、商店街の皆さんが自ら中心商店街の魅力を向上させるための取組について、私どもの基本計画と同時に検討を進めておられますので、そういったところと、それも市民力かと思っておりますので、そういった力と連携いたしまして魅力ある中心商店街づくりを進めたいと思っておりますのでございます。

宮原育子部会長

よろしいでしょうか。
どうぞ。

岡本あき子委員

回答からはい分かりましたということではなく、「ミュージアム都市」の言葉については、この部会の中であるいは全体の中でも一番重要なことなので、言葉も含めてあるいは目的も含めて決めていければと思いますので。

宮原育子部会長

是非いろいろご意見を皆さんからもいただきたいと思います。
ありがとうございました。

今日は一番議論したいのは前回も意見が出たんですけど、都市の魅力部会ということで、特に分野別、私どものミッションとしては、この基本計画の分野別計画の中の都市の魅力というところ、主に都市像の3、4、それから1の今のミュージアム都市もそうなのですが、そこら辺にかかわるところを今日はちょっと重点的に議論したいと思いま

すので、先に進めさせていただいて、後の方でまた前に戻ってご意見をいただくという時間を取りたいと思います。それでは続きまして今日の本題であります、資料2の「第3章 分野別計画」に移りたいと思います。

こちらは資料4で見いただきますとおり、都市の魅力に関しましては6項目が挙げられております。これにつきまして全体を三つに区切りながら説明をして、そしてそれにつきましてまたご意見をいただいて、また次に移ってということで、逐次行っていきたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。それでは事務局からまず1と2の「自然と調和する持続可能な環境都市づくり」と「美しく緑豊かな都市空間づくり」につきましてご説明をお願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは(1)、(2)、資料2の17ページから22ページのところについてご説明をさせていただきます。18ページをご覧ください。

体系の1でございます「自然と調和する持続可能な環境都市づくり」でございます。低炭素社会への対応等、新しい環境の流れに対する対応が求められております。杜の都としてはぐくまれてきた自然環境、緑地・農地の保全、生き物の多様性の保全等を目指すものでございます。廃棄物の減量、資源の循環等これまで進めてきた取組を一層進めたいということでございます。それに従いまして18ページ下段にあります、五つの取組を進めたいと思っております。19ページの方で説明させていただきます。

基本的施策の「低炭素型の都市づくり」でございます。市街地の拡大の抑制等、先程のランドデザインの中でお示ししました、都市構造づくりが必要だと思っております。森林等の保全、創出、オフィスビルや民間住宅などの省エネの流通、各種省エネルギー行動の周知啓発、市民・事業者との協働等が必要かと思っております。

「循環型の都市づくり」でございます。21プランの方でかなり成果が出たと申し上げました減量・リサイクルでございますが、これをより一層進めまして廃棄物の処理循環、リサイクルにつきまして先進的な取組を進めたいと思っております。

また「良好で快適な環境を守り、創る都市づくり」でございます。大気汚染、騒音・振動などの発生源について負荷低減を図ってまいりたいと考えております。低公害車の普及、エコドライブの推進など国全体で取り組んでおるところでございますが、市としても取り組めるものを進めてまいりたいと思っております。

「自然と共生する都市づくり」でございます。土地利用等、適正な規制を行いまして、自然環境を保全する。これによりまして生物多様性の確保・普及啓発が重要だと思っております。森林の保全、里山・田園等の機能の維持向上を図ってまいりたいと思っております。

20ページでございます。このような環境を支えていくのはやはり人でございますので、人づくり、仕組みづくりを進めたいと思っております。市民主体の活動、まちづくりのルールづくりなどを進めたいと思っておりますし、F E E L S e n d a i という現在進めております、市民環境教育・学習推進会議を核としました、市民への周知を進めてま

いりたいと考えているところでございます。

21ページ(2)でございます。本市の西部にある豊かな緑の保全、東部の海岸線にある魅力的な干潟、海岸林、七北田川や名取川、広瀬川などの河川といった本市の骨格をなす貴重な自然等の景観を守っていきたいと考えております。またこれに合わせまして青葉通、広瀬川等、美しく風格のある景観を保全してまいりたいと考えているところでございます。

22ページ基本的施策でございます。「緑と水のネットワークの形成」でございます。公共施設や街路の緑化を引き続き推進するとともに、民有地の緑化を進めてまいりたいと考えております。保存緑地、特別緑地保全や、連続性のある美しい並木景観を育てていくことが重要と考えております。広瀬川や名取川、七北田川等の清流を保全するような市民活動との連携を強めてまいりたいと考えております。

「身近で魅力的な公園と緑地の整備」でございます。青葉山公園の整備、本市の代表的な公園となります、青葉山公園の整備を進めてまいりたいと考えております。また広瀬川を取り囲む西公園、大年寺山公園等について、歴史・文化をつなぐ緑の拠点としてエリア形成を図りたいと考えております。市民の憩いの場である都市公園の適切な維持管理、計画的な改修等を進めて、市民連携で公園の運営管理を進めることが重要だと思っております。

「風格ある景観の形成」でございます。本市が全国に誇ります先行した景観条例、広瀬川清流を守る条例等に基づきまして、守ってきました広瀬川周辺の景観、また、景観法に基づく都市景観形成を一層進め、風格ある杜の都の景観を形成したいと思っております。

(1)、(2)につきまして以上でございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

それでは、(1)と(2)をご説明いただきまして、これにつきましてご質問やご意見ありましたらお願いしたいと思います。

大滝委員お願いいたします。

大滝精一委員

質問か意見がよく分からないのですが、二つあるんですけれども、一つは、多分次の10年を考えたときに、ここに出てくるエネルギーとか環境の問題の中で、簡単にエネルギー技術とか環境技術のイノベーションというのが起こることが予測される、もう実際にそういうことがあるのはご存じのとおりで、グリッドだとか、もっとネットワーク型で小規模分散でやれるという、そういう技術革新が確実に起こって、そういうものを仙台市としてどういうふうに受け止めたり、あるいは仙台市自身がそういうものを積極的ににつくりだしたり、発信したりするということについて、何かもうちょっと積極的なメッセージがあっていいんじゃないかなということが一つです。これを見ていると良いものをきちんと守っていきましようとか、これまでの延長線上の中で仙台の持って

いる資産を守り育てていきたいと思いますというメッセージはよく分かるんですけど、何か今世の中で起こっているかなり大事なことについては、あんまりふれていないというのはどうしてなんだろうというのが、ちょっと一つ素朴な疑問としてあると思うんです。世界中で今、グリーンニューディールでいろんなものを変えていこうとしているわけです。そういうことに対して仙台としてはどういう取組をするかというところ、それが一つあったほうがいいんじゃないかと思いますね。

それから二つ目は、それと関係するかどうかは私もよく分からないんですけど、特に22ページのところに、緑と水のネットワークの形成という素晴らしいいいコンセプトが出てくるんです。仙台全体を緑と水のネットワークととらえて、そういうものをつくっていこうという考え方は、私は素晴らしいと思うんですけども、これを見ていると、緑のネットワーク、それから水のネットワークというのがそれぞれのところに出てくるんですけど、例えば、水と緑がどういうふうリンクして、環境とかエネルギーというようなものに対応するネットワークをつくっていくんだろうかという、もっと何とか積極的な方向性とか施策みたいなものがあっていいんじゃないかと思うんです。これだけ見ていると何か、緑のネットワークがあります、水のネットワークがあります、それが何となく寄り集まって仙台をつくっていますというすごく静態的なイメージになっていて、もっとこのコンセプト自体をダイナミックに展開できるような施策があっていいんじゃないか。さっき私が言った冒頭のエネルギーとか環境の技術面でのイノベーションみたいなものと、もっとリンクさせたらいいということ。難しいのかもしれませんが、せっかくこんな素晴らしいコンセプトがあるのに、何となくそれぞれの緑と水というのがうまく本当にリンクできているのかというのは、これだけを見る限りではちょっと僕は分かりません。もう少しそういうものがあっていいんじゃないかな、本当の意味での仙台らしさみたいなもの表に出していくという手が、そういう積極的な取組みたいなものを出したらいいんじゃないかなと思います。

以上です。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

事務局の方からは何か発言ございますか。

梅内総合計画課長

二つご指摘がございまして、練り込みの足りない部分等あるかと思うので、ご指摘を踏まえてどういったことが可能か考えてまいりたいと思っておりますが、前段の方のご指摘でございます。それにつきましては、庁内でも議論がございまして、例えば重点政策、先程ご説明しました資料1の13ページでございます。都市の産業政策ということなんですけれども、これの13ページの上にイ)がございまして、次世代の成長産業として期待されている健康福祉分野の産業クラスターということを書かしていただいております。これは高齢化社会をにらみまして、健康福祉分野の産業の成長が期待できるということを記載しているんですけども、このほかにこの分野でいうと、同様に今大

滝委員からご指摘ありましたように、環境産業についてもこれからいろんなニーズが出てくると思っておりますし、仙台としての環境産業とのかかわりですとか、先程大滝委員からご指摘ありましたように、仙台としてこの分野で何をしていくかという部分に記載が足りないのではないかという議論が市役所の中でもございまして、ただ今のご指摘も踏まえて今後これについて検討してまいりたいと思います。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

ほかに今（１）（２）につきまして特にございますか。

西大立目委員をお願いします。

西大立目祥子委員

前のところと重複しているのですが、私は都市の魅力部会におけるこの（１）、（２）というのは、先程から出ている「ミュージアム都市構想」とすごくクロスしているところだと思うんです。緑と水のネットワーク形成だとか、風格のある景観の形成だとか、すごく漠然としたところで出て来ているんですけれども、きめ細かい地域政策みたいなことが単に暮らしの部分、暮らしとか福祉とかそういう領域だけのことでなくて、景観形成上の地域、小さな単位の地域地域に魅力的な景観がつくられていくということが、何か質的なこれからの暮らしにはとても必要なことではないかと思っております。ですから、何となく現状追認の施策という感じもあって、風格ある景観形成っていうのもとても漠然としているような印象があって、もちろん高さ制限とかも私はしていただきたいと思っていますけれども、小さな仙台の街々にある暮らしの中から、住む人が自らそこにある遺産や資産を発見して行って、それによって都市の魅力を形づくって行って、その都市の魅力を形づくるのはやっぱり住んでいる人たちだと思うんです。だから「ミュージアム都市構想」というのを、最も上位にあるものとして展開するのであれば、私は単に重点政策としてぽんと出すのではなくて、それこそが今までの縦割りのお役所の仕事の進め方を超えて、横断的にいろんな分野に展開して行って、それが今度の基本構想の目玉になるようにというところまで高めていけないものかなというのを感じます。青葉通とか広瀬川は言うまでもなく大事なんですけれども、そういうものとして都市のブランドを、ビジターに対して出すというだけではなくて、私たちが日常生活の中で自分のまちはいいまちだと実感できるというのが、やっぱり自分の住む地域の街角に、何か歴史性のあるものがあるとか、いい街路樹がちょっとあるとか、いいお庭があるとか、その中で質的な都市の魅力って感じていくんじゃないかと思うんです。そういう視点で、もうちょっとミュージアム都市構想を、市民協働のもう少し上を目指すようなものとして、単に学びのものではないと思うし、都市の魅力部会の一番上位のものと、これで市民生活の方の前にも学びの都とか出てくるんですけど、私はもっと工夫していいのかなと思います。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

今の枠組み、それから一番重点的にしたいということで、局長の方からどうぞ。

山内企画調整局長

西大立目委員のご指摘はごもっともな点多々あるかと思います。いろいろ意見を聞いた中でまとめのスピードというのもございまして、まだ中間案として今月中に一応おまとめいただきまして、それに対して広範なご意見をいただいて、更に熟度を高めていきたいという考えでございまして、その辺はご理解いただきたいという部分がござい

ます。
今「ミュージアム都市構想」のご指摘がございましたけれども、5ページの重点政策の部分を見ていただきますと、今の西大立目委員のご指摘いただいた部分などは、この中にいろいろ載せているつもりではございます。それが分野別計画との関連性でどうかという問題提起かと思えますけれども、重点政策につきましては、横断的な視点ということを重視したつもりでございまして、それがどう都市像の実現を牽引していくかというような位置づけの基に、都市像の並びに沿って一応四つの重点政策というような柱立てをしてございます。

「ミュージアム都市」づくりににつきましては、先程、岡本委員の話もございましたし、西大立目委員の話もございましたように、まだまだ熟度が低いのかなと思っておりまして、この件は目的も含めて今後更に精査していく必要があると思います。ただ、中間案の段階で、今どこまで修正できるかというのは、その辺はちょっと時間の関係もござい

ますので、部会長の方とご審議いただいて、重ねて進めていただければと思っております。
分野別計画の中身につきましては、仙台市の市政の施策全般について市民に分かりやすく体系化したいということで、市民の暮らしという分野と都市の魅力という分野に分けて体系化するという中でこの体系化になっておりまして、その点についても新しい施策展開の方向としてのご指摘ごもっともな点もございしますので、そういった中でどこまでやれるかはもちろん庁内で調整をさせていただきたいと思います。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

いずれにしてもこの中間案をまず市民の方にお見せして、そしてまたいろいろご意見をいただくということではあるんですけれども、やっぱり委員の皆さんのご指摘してくださっているとおり、この次の10年の仙台市の新しいビジョンって何なのというところをきちっと強調して、そこに集中的にご意見をいただけるような流れというのも非常に重要かと思いますので、局長がおっしゃるように全部それを中間案にまとめるかどうかは大変難しいところかもしれませんが、まだまだその後も議論が続きますので、今日いろいろまたご意見を言っていただければと思います。

それではすみません、ちょっと時間の都合で(3)、(4)の方に行きまして、またご意見をいただきながら進めていきたいと思っております。よろしくお願いします。

梅内総合計画課長

それでは（３）、（４）につきましてご説明いたします。先程のグランドデザイン（１）、（２）に続きまして、グランドデザインにかかわるところでございます。23ページをご覧ください。

23ページ「（３）機能集約・地域再生型の市街地の形成」でございます。人口減少社会を迎える中、環境に配慮し、自動車に過度に依存しない鉄道等を中心とした集約型市街地形成を進めてまいりたいと考えているものでございます。泉中央や長町地区のような広域の都市圏住民の活動拠点の整備、また、地下鉄東西線の推進、これによる新しい都市の動き等を形成していきたいと思っております。また、一部郊外区域におきましては、人口減少等問題が発生する恐れがありますので、これに対して公共交通を始めとして計画的な対応をしてまいりたいと考えているものでございます。

24ページをご覧ください。「都心の強化・充実」でございます。都心は仙台市の顔であるとともに、東北の交流拠点でございます。商業・業務機能、国際交流機能等、多様な機能が集中しております。こちらの都市基盤の強化・充実を図ってまいりたいと考えております。現在整備が進んでおります、仙台駅東地区の土地区画整理事業や、近隣での再開発事業等を進め、中枢都市にふさわしい都市基盤、そして仙台駅周辺の交通結節機能の強化を進めたいと考えております。

「拠点の強化・充実」でございます。泉中央及び長町にあります、北部南部の「広域拠点」にふさわしい魅力的な都市機能を備えていく必要があると思っております。また、仙台港周辺の「国際経済流通拠点」、青葉山周辺の「学術文化交流拠点」等の一層の整備推進を図ってまいりたいと考えてございます。

「都市構造の基軸となる都市軸の形成」でございますが、地下鉄南北線及び開業します東西線沿線を機能集約の基軸となります「都市軸」と位置づけまして、こちらに各種の都市機能の集約を図ってまいりたいと考えているところでございます。

「良好な市街地の形成」でございますが、現在人口の集約が進んでおります、ＪＲや地下鉄といった鉄道沿線区域におきまして、交通の利便性を生かして生活機能の向上を図りますと共に、各種住み替えの誘導等を図ってまいりたいと考えております。またこういう集約に伴いまして、地域活動等の低下が懸念されている地域も発生してまいりますので、交通、福祉、コミュニティ形成とさまざまな分野におきまして、地域と共に維持・改善に向けた取組を進めたいと思っております。

26ページをご覧ください。「（４）公共交通中心の利便性の高い交通体系の構築」でございます。27ページに３項目入れてございます。鉄道とバスの結節を中心とします、公共交通ネットワークを構築してまいりたいと考えております。公共交通利用促進のため、利用しやすい運賃のあり方の検討、せんだいスマートや、利便性を高めるＩＣ乗車券の導入などを合わせて図ってまいりたいと考えているところでございます。

「便利で安全な交通環境の構築」でございます。都心や鉄道駅を中心としたエリアにおきまして、歩行者の安全と両立を図りながら、自転車の利用環境等を向上させてまいりたいと考えております。駐車場の増加の抑制、共同荷さばき駐車施設の設置など、

都市内物流の効率化も重要なテーマと考えているところでございます。路線バスの維持、また、路線バスの運行サービスの不十分な地域における協働による乗合タクシー等、地域や実態に合わせた、持続可能な生活交通の導入を検討してまいりたいと考えております。

「都市活動を支える道路ネットワークの構築」でございます。都市計画道路の見直し等現在進めておりますが、産業活動などの都市の活力を支える道路ネットワークにつきまして、優先順位を明確にしながら効果的な整備を進めたいと考えております。整備にあたりましては、地下鉄東西線に関連する道路、交通結節点、鉄道駅などアクセス道路、バス路線などについて優先的な整備を進める等、優先順位を明確にしたというところをはっきり打ち出したいと思っているところでございます。以上でございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

次は（３）と（４）なんですが、市街地の形成にかかわる部分、それから交通体系にかかわる部分につきまして、今施策のご説明がありました。これにつきまして、ご意見、ご質問ありましたらお願いいたします。

では、石川委員お願いします。

石川建治委員

大枠ではこれでいいのかなと思いますが、一方で、例えば「都心の強化・充実」という中に、東北の玄関口にふさわしい交通結節機能を仙台駅を中心にしてつくると言っていることなんですが、残念ながら現実には仙台駅周辺の再開発が民間にゆだねられていて、そこに行行政がどのようにかかっているのか、非常に分散しているバス停をどう集約をしていくのか、他の政令都市のバスターミナルはしっかりとつくられておりますけれども、そういった結節機能を高めるといったときに、バス停の集約をするための方策というものがなかなか一方では見えてこない。確かに去年実験で道路を封鎖して実験をやったんですが、それ以降進んでいないというのもあって、本当に東北の玄関口にふさわしい結節機能というものがもう少し打ち出されないと、何かこう言葉で終わってしまいかねないような心配があるということの一つ危惧しております。

それから景観との絡みですが、どこに行っても同じ、駅前に降りるとどこの街も同じ風景というか、ビルがあって看板も同じ様な看板があると。そういった面では仙台に来たんだという、仙台駅に降りたときに仙台に来たと感じられるようなランドマークとかそういったものがあるんだろうと思うんですが、そういったことも含めて東北の玄関口というところをどの程度に考えているのか、ちょっとこれをお聞きしたいなと思っておりました。

それから公共交通中心の利便性の高い交通体系の構築というところでは、縦横の十字の地下鉄ができあがると、そのほかにＪＲも活用して鉄道網を中心として、バスがそれを補完するという表現になっているんです。私は地下鉄が縦横に軸にできたからそれがその軸で、100万の市民がそれをすべて利用すればＯＫということではなくて、鉄道がな

いところ、鉄軌道がないところはどうしてもやっぱりバスという公共交通が必要なわけで、そういった面では補完という表現でいいのかどうか、この辺については事務局にお聞きしているというよりも、例えばこの部会の皆さんの中にももしこういったことについてご意見等あれば、それぞれやり取りができれば、そういった中で表現を変えるとか、補強するとか、あるいはこのままでいくとかといった判断もできればいいのかなと思います。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

一点目は事務局にお聞きしてもよろしいですか。東北の玄関口仙台としての機能とか収容性をどう表現していくのかということなんですけれども。

梅内総合計画課長

その点につきましては、先程石川委員の方からございましたけれども、24ページの辺りかと思います。特に三番目のポツでございまして、駅周辺の機能強化という形でちょっと簡単な記載になっておりますが、先程バスターミナルの課題でありますとか、仙台駅周辺で現在東西線の工事に関連しましていろいろなことを検討しております。その辺につきましてちょっとまだ方向性をきちっと出せていないと思っておりますので、この辺りを中間案まで、もう少し長くかかるかもしれませんが最終案までの段階でどの程度たたき込んでいけるのか、担当部局とも相談したいと思っておりますし、また市民の皆様のご意見なども踏まえてまいりたいと思っております。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

そして、今26ページですかね、公共交通の中で鉄道がメイン、そしてバスが補完するという部分のいい方等なんですけれども、これについてもっとご意見ございますか。委員の皆さんの方から。

では、菅井委員。

菅井邦明委員

今、石川委員と同じことを考えていたんですが、鉄道が中心であると先程言われましたけれども、市民側から言うと車が中心なのではないですか。車が中心になって僕たちは動いているんです。私からすれば鉄道が中心になんかなってないですよ。朝のラッシュを見るとすぐ分かるんじゃないですか。どうしてこういう発想になるのか僕は分からない。つまり、例えば今東西線が完成されようとしていますが、八木山のところに終点があります。南西部から長町集落含めて膨大な車がずっと仙台市役所までつながって、朝大渋滞になっていますが、あれを例えば、これは成功するかどうか分かりませんが、八木山の終点に大規模な駐車場をつくって、もうラッシュアワーは民間の車、個人の車は入れないという原則を立てたとします。そこに車を置いてどうぞ皆さん地下鉄使って

くださいとなるとこれは全然変わります。空気もキレイになるし街はキレイになるし、あるいは市街地をみんな歩いて買い物する人もいるかもしれない。ですから、今石川委員のこれは鉄道が中心というのは、そうしたいという希望を持っているのはいいです。私の発想からは多分石川委員もそうじゃなくて車が中心になっているから今困っているわけですね。あるいは、電気自動車にしてみようとか、さっき大滝先生からイノベーションの話も出ましたけれども、仙台市内はラッシュ時は1キロ範囲は車を入れないとか、そのために鉄道を使えるようにするとか、あるいは、バスを使えるようにするんだという発想でないと、26ページで公共交通機関をうまく利用されていない云々、バス、バスって書いてある、この分析の仕方は視点が間違っていると私は思いますけれども、どうでしょうか。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

いかがでしょうか、ほかに今のご意見の続きでもいいと思いますけれども。

はい、間庭委員お願いします。

間庭洋委員

26ページの施策の方向ということで、方向性や姿勢を示すということですので、鉄道が中心となってほしいっていいですか、あるいは軌道系を軸としてそれをお互いに生きるような形で、バスが鉄道にはできないような補完をしていくと。しかし、軌道による基軸交通というのはやはり軌道系であるという意味での方向性については、私は賛成したいと思います。ただ、今先生がおっしゃるようなドラスチックな方向にもっと切り替えられるかどうかという議論はかなりコンセンサス得るのは大変だなという。しかし、そうあってほしいなというまったく同感な思いはしているんですけども。

例えば軌道系を中心にしてなるべくそういう環境にやさしい、仙台のCO₂の3分の1は車から出ているようですので、それをできるだけ抑制していく都市構造なり交通の仕組みをどうしたらいいのかということについても、方向性はこういう方向性であり、しかし、勘違いされないような誤解を生まないような表現は必要かなとは思いますが。

宮原育子部会長

ありがとうございました。では鈴木委員お願いします。

鈴木勇治委員

すみません、この「機能集約・地域再生型の市街地の形成」というところなんですけれども、良好な市街地の形成は、これはいいんですけども。ここのところで何を良好とするかは別の問題なんですけれども。いわゆる市街地が形成されたところとそれから郊外型のところ。実は今来るときもタクシーに乗って来たら、運転手さんが私は50歳前なんですけど、ゆったり暮らしたいと言うわけです。どこに住んでいるんですかと尋ねると、原町あたりですがそんなにガタガタした市街地になってほしくないというよう

なことを言っていました。郊外区域等からの住み替えを誘導するとなっているんですけども、そうすると、これはある部分、郊外に住むということを否定しているのかなととらえる人も多くなってくると思うんです。逆に今、郊外あるいは中山間地に住んでいる人たちは、我々の生活は無意味なのかととらえられるんじゃないのかなと。中でも議論になったんじゃないかなと思うんだけど、その辺はどのように考えているんですか。

宮原育子部会長

ありがとうございます。
今の件もご質問ですので。

梅内総合計画課長

先程の菅井委員のご質問と合わせて、こちらの方で検討した中身についてお話ししたいと思います。

菅井委員のご指摘がありましたとおり、仙台市の交通の中心が現在自動車であることは間違いのないところでございまして、交通関係の総合的な調査でもそういった実態が出ております。先程、公共交通の利用者が右へわずかに減っているというデータを出しましたが、自動車の利用台数というのが市民だけではないものですから、はっきりとは分からないんですが、仙台市内を走る自動車交通の量というのは間違いなく10年前と比べても増えていると受け止めてございます。そういう意味では私どもの今回お示したものの、こういうものに切り替えていきたいというそういう意味では今後の施策の方向を示すものであります。実際交通の階層、中核を自動車が占めている部分というのはご指摘のとおりでございまして、それから高齢化社会をにらんだときに、また、低炭素社会を求められるときに、公共としてこういった交通体系を目指していくのかという点で、こういった形をお示ししているというところでございます。

また、鈴木委員からご指摘ありましたとおり、「良好な市街地の形成」のところでは、郊外区域の住宅からの住み替え等ということを前段で出しておりますと、ご指摘のような点が出てまいるといのはありまして、どの程度市の方向としてお示しするのが適切なのかというのが非常に難しい課題でございます。今、都市整備局でも住環境プランというものをこちらと平行して検討しておりますけれども、住み替えの促進に移行を図る一方で、郊外住宅団地の居住環境を維持するのにどうしたらいいかという非常に大きな課題としてあり方を検討しております。なかなかこれという方向性が出せなくて、委員の皆様、私もこの前その委員会に出席していろいろ意見を述べてきたんですけども、そちらの方でも委員の皆さんと一緒にその課題について検討していますが、特効薬のようなものが難しく、こちらの方の方向性としても、どの程度の書き分けをして中間案としたりいいかというのが非常に悩んでいるところです。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

鈴木勇治委員

悩んでいるのは分かるんだけど、書くのであればそう進ちょくさせるということになるし、これと新しい住宅団地があって、そこがかなり高齢化してきたということがあるのであれば、その団地とそこの農業をやっている家庭との交流といったものを深めさせるとか、郊外の農村地帯はコミュニティ性というのはすごく強いんですよ。そういったところを生かしていくとか方法はあるんじゃないかなと思うんです。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

それではちょっと時間も押してしまうので申しわけないのですが、（５）と（６）も説明をしていただきながら、また皆さんからご意見を更にいただきたいと思います。では、ご説明をお願いします。

梅内総合計画課長

それでは28ページから（５）と（６）でございます。「（５）地域を支える経済・活力づくり」でございます。人口減少社会になりまして、本市の経済成長率も先程の21プランの中でお示ししましたように厳しい面がございます。この中で地域経済の活力を生む産業の活性化、雇用の維持・確保が必要と考えているところでございます。自動車の関連産業などの集積も、集積といいますか移転が始まっておりますので、こういった機運ですとか、東北大学を始めとする産学連携、企業間連携によるイノベーション等の取組が必要だと思っております。また、先程ご意見ありましたけれども、商店街を取り巻く環境は厳しい部分がございますけれども、中心商店街の皆さんと一緒に今ビジョンをつくっていかうとしておりますので、こういった動きを進めてまいりたいと考えているところでございます。

29ページの基本的施策でございます。本市の産業構造の中核を成します中小企業の活性化につきまして、金融支援等これまで講じてきたものに加えまして、各種相談事業、インキュベーション等の支援やセミナーの開催等を行ってまいりたいと考えてございます。付加価値の高い産業の振興ということで、クリエイティブ産業、新産業等の誘致、また育成、これと既存産業との関係に努めてまいりたいと考えています。中心部・商店街の活力づくりにつきましては、先程のビジョンの実行等を着実にやってまいりたいと考えております。また、環境保全という面等、多面的な機能を有します農林業につきましても農商工連携の推進等取組を進めて、こちらの分野の維持・活性化を図ってまいりたいと考えているところでございます。

31ページ、最後の項目でございます「魅力を向上する都市力づくり」でございます。都市間競争といわれる中で、都市の魅力づくりが重要となっておりますので、東北内の各地域との連携を強めながら、整備されてまいりました高速移動、各種の道路網等の活用を図りながら、また、企業、大学等との連携を強めながら都市ブランド、地域ブランドの確立に努めたいと思っているところでございます。

32ページの基本的施策でございますけれども、都市ブランドの向上ということで、ス

スポーツ、文化、学都、各種イベント等の取組として仙台につくられてきた各種のブランドを向上させてまいりたいと考えておりますし、今後、国際センター駅周辺、青葉山公園の整備等でこの地区にコンベンション機能の強化を図ってまいりたいと考えております。観光・コンベンション機能の強化でございますが、首都圏を始め全国に向けまして、仙台だけではなく東北各地との連携による観光・コンベンションのアピールをしてまいりたいと考えております。真下でございますけれども、東アジアを始め海外との経済交流ですとか、広域的な交通ネットワークを活用した物流・交流といったことを図ってまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

五番目につきましては、地域経済の活性化にかかわる部分、六番目につきましては、都市間競争の中で仙台の位置づけ、ないし仙台のアピールの仕方等の施策についてご説明いただきました。

この部分ではいかかでしょうか。

大滝委員をお願いします。

大滝精一委員

二つくらい申し上げたいんですけれども、一つは先程のミュージアムの話があって、私はこういう産業とか経済というところに、もうちょっとそういう発想を入れてほしいと思うんです。さっき西大立目委員もおっしゃっていたんですけれども、特に産業とか経済の活性化ということが考えられると思うんです。すべてのものをミュージアムに変えていくとか、いろんな仙台のまちをミュージアムにしていくという発想、例えば工場もミュージアム、それから倉庫だってミュージアム、商店街だって横丁だってミュージアムという、こういう発想をもっとこういう施策の中に入れていけば、つまりゼロから新しいものをつくっていくというよりも、今あるものを換骨奪胎していくというか、換骨奪胎って悪い意味じゃなくていいものを大切にしながらという、なんかそういうものが仙台の魅力をもっと高めていくというようなことを、これはまちづくりとか環境だけではなくて実は産業の中で一番やらなくちゃいけないと思うんです。だからミュージアム都市構想とか、ミュージアムをつくっていくという発想をむしろそういうところとリンクさせていくと私はいいのかなと思うんです。是非何かそういう発想でこう取り組んでいただけると、もっとミュージアム都市構想というものの広がりとか意味というのが、市民の皆さんによく理解してもらえないかと思うんです。そういう視点から見て、それは最近の大きな流れからいえば、いわゆるクリエイティブ産業をつくっていくとか大きな流れというものと結びついていると思いますけれども、そういうものをもうちょっとこの中に取り込めないだろうかということが一つです。

それからもう一つは、この中に市民力という話もたくさん出てきていて、市民力が都市の活力とか魅力をつくっていくという話があるんですけれども、もうちょっと市民力

というものと産業とか経済とか文化とかというものを、もっといろんな意味でリンクさせていくという、この中にはイベントとか何かたくさん取り上げられているんですけども、例えば前回の構想の中ではコミュニティビジネスなんてことがずいぶんたくさん言われていたんです。でも、これを読んでもコミュニティビジネスとかソーシャルビジネスをつくっていくとかというようなものが書かれていないので、そういうものをもっとダイレクトに入れていいと思うんです。だから、それは企業の人たちと地域の人たちとか、企業の人たちとNPOの人たちとか、そういういろんな人たちがリンクして、新しい事業とか何か物事を起こしていく芽をつくっていくというか、それが新しい活性化とか産業とか経済の芽をつくっていくというような表現をもっと入れてほしいと思うんです。何かその市民力という、産業とか経済とかと違うところにあるという印象を受けるんですけど、私はそれ違うんじゃないかと思うんです。そういうようなものが二つこうあって、うまく車のギアリンクみたいに動くことでいいものができていくという、仙台はその両方が離れないでうまくリンクできているというところが、街の魅力というようなところをつくりだしていくのが、むしろいいんじゃないのかなと思うんです。そういう発想をもっと入れてほしいと思います。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

ほかに委員さんの方でこういうことに関連してご意見ございますか。いかがでしょうか。

岡本委員。

岡本あき子委員

先程、大滝先生からお話があったその環境技術も含めてですけど、技術というか新しい研究開発という部分を、やっぱり東北大を抱えている仙台市としてもうちょっとこう表に出してもいいのかなという気がします。どういうふうにするかは別なんですけれども、前回の部会のときにも公にはお話はしなかったんですけども、たまたまちょうど仙台オリジナルという科学技術を調べる機会があって、そうすると八木アンテナさんとかから始まって、西澤先生ですとか石田名香雄先生の仙台ウィルスとか、仙台ダストという技術もソニーの進出のきっかけになったというお話も伺いましたし、後事実でなければ訂正していただければと思いますが、4WDという車の技術も仙台から生まれたという、そういう実は以外と市民自身が、世界的に通用するような技術がこれだけあり、しかも大体10年に1回ぐらいのスパンになるのかなと思うと、ここ10年でも期待できるものってあるんじゃないかなと思うんです。特にやっぱり環境だったり、医療だったり、健康福祉だったりという分野が非常に大きいのかと思っていきますので、研究から技術、産業に結びつけばそれこそありがたい話ですし、人材も含めてそういう技術を生み出している仙台なんだという部分をもうちょっと積極的に、だんだんと縮小していく時代に適応して何となく身の丈においていきましょうという部分も現実的には分からないではないんですけども、やはりその中でどんどん人材を生み出してそれが新しい技術や研

究につながっていく仙台なんだということを、プライドを持ってこの10年で据えていきましょうという。要は10年を目指したもののなので、そこら辺はもっとうたってもいいんじゃないのかなと思うんです。それが産業で表現したらいいのか、都市力みたいな形で表現したらいいのかちょっと分かりませんが、是非そこら辺少し明るい要素として期待したいし、期待できる技術として仙台市が先導していきましょうということをうたっていきたいと思います。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

石川委員。

石川建治委員

(6)でもいいですか。「魅力を向上する都市力づくり」なんですが、動向と課題を読んでずっと引っ掛かりがあるんです。何かというと、何のために都市の魅力づくりに力を入れるんだらうということなんです。これでいくと都市の魅力づくりを進めようと、その中にブランド力の向上も含まれているんだと、しかし、その下の定住人口の増加が見込めないから、いわば交流人口の拡大を図ろうと、こういう考えですね。要はいわゆる第3の市民、観光とか仕事とか何かでちょっと寄って後はもういなくなるという人たちを呼び込むということに、主眼をおくことでいいのかどうかと思っているんです。将来的には人口が減少していくという中でも、しかし、仙台に住みたい、仙台に住むということが受け入れられるようになるために、都市の魅力ってつくるものじゃないのかというか、この仙台に私は住んでいるということが胸を張って言えるような街にしたいと、定住人口を増やそうという意識がなければ税収も含めて考えればいいし、地域経済においてもそこで暮らすということはそこで消費をするということなんです。そうすると大きな経済に対する影響もあるわけですから、そういった面ではこれからの10年間で、人も少なくなり経済も縮小するというどんどん萎縮していくようなことではなくて、そういった中でもその基礎となる人口、定住人口を増やしていこうという展望をもった表現をしないと、何のための都市の魅力づくりなのかというのがちょっと分からないので、もし委員の皆さんの方からでも、例えばこういうことじゃないのというものがあれば出してもらいたいし、行政側でどのように考えているのかというのをお聞きしたい。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

この件について委員の皆さんの方からいかがでしょうか。

では、高野委員お願いします。

高野秀策委員

さっき仙台21プランで、本来なら今は仙台は112万ぐらいになっているというのが103

万人しかいない。8万人というのは結構大きな一つの市ですね。その分の人口がいないというのがなぜかという、やはりこういう経済が変わって仙台から東京からきている支店とか営業所が撤退する。もう一つは仙台にきちとした産業といいますかそういうのがない。就業場所がない。

県は北部工業団地に自動車産業をつくりましたけれども、仙台でも何か目玉になるようなものが必要なんじゃないか。

何年か前に仙台駅東口をIT産業の基地にするみたいなことが新聞に載りましたよね。でも、仙台東口のどこにそういうものがあるのかなといつも私は思っています。最近、仙台駅東口の開発も終わりに近づいて、いっぱい宅地が出て、あそこはまたマンションだらけになるのかなと思うと、仙台のそういったまちづくりの目標ってどこにあったのかなと私は思っています。

今、地下鉄東西線がつくられて、東の荒井地区周辺では農地がいっぱいありまして、そこに区画整理を仙台でも進めているような節がありますし、農家の方も米がもうどうにもならないし将来が見えないということで、区画整理をしたいという動きがあるんですね。しかし就業する場所がなくあるいは少子高齢化で将来宅地はそんなに必要としないと私は思うんです。30年、40年経ってる古い団地はもう既に高齢化になっておりどんどん空き家が出てくるから、私は仙台は今の状況はかなり宅地供給過剰だと思います。ここにさっき、良好な市街地の形成に区画整理事業の推進みたいな下りもございますが、こういうことはやっていいのかなとそう思います。ですから、区画整理をやっても将来その土地利用がただ宅地だけの区画整理では意味がないので、仙台の魅力ある何かがそこになれば区画整理事業の推進も難しいのではないのかなと感じました。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

いろいろご意見いただいておりますけれども、いかがですか。後、ほかの委員の皆さんいかがですか。

それではまた先に進ませていただければと思いますけれども。

私たち都市の魅力部会なのですが、明日市民の暮らし分野の部会があるんですけれども、何か皆さんの方から特に市民の暮らしの部分にかかわることについて、ご意見がある方がいらっしゃいましたら出していただければと思います。いかがでしょうか。

分野別計画の前の方は見る時間がなかったのですけれども、今の魅力づくりの部分とか、かなり暮らしにかかわる部分、交通ですとか先程の市街地の話ともかなり絡んでくると思うんですけれども。特によろしいですか。

先送りにして申しわけないんですが、また後で思いつかれましたら是非お話いただきたいと思います。

今日、まだちょっと資料が残っておりまして、今度は資料3、大きなこの設計図でいきますと第5章の推進に向けてということについても事務局から説明をしたいということですので、それでは資料3の説明をよろしくお願いします。

梅内総合計画課長

資料3、一枚ものでございます。基本計画自体のまとめの章になります。

基本構想・基本計画の推進にあたりまして、議会や市民のご理解を得ながら、事業・施策を確実に実施してまいりたいと考えております。そのために一番にございます、実施計画、3年の計画期間であるアクションプログラムを作成し、確実な推進を図ってまいりたいと考えてございます。

また、(2)の「総合的な推進」でございますけれども、兼ねてからといいますか大きな課題であります横断的な縦割りの弊害を除去したような取組に対応してまいりたいと思います。一つ目は地域政策といったようなことを実施していくというふうに、先程都市経営のところであいましたけれどもこういったところ、ご指摘ありましたミュージアム都市構想といったような重点施策、いずれにしても推進するには総合的な取組が必要だと考えているところでございます。

(3)この計画に基づきます施策の進ちょく等の点検が必要でございます。点検につきまして市民が点検に参加できるような、そしてそれを市議会にお示しする基礎資料の作成に、市民の方にもお入りいただけるような仕組みについて検討したいと思っているところでございます。市民アンケート等を実施したいと考えてございます。

施策目標の評価を適切に行うため、今後中間案を踏まえまして事業効果につきまして分かりやすい目標を設定し、これについて評価点検を行いたいと思っているところでございます。

以上でございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

第5章はこの計画を推進するにあたって、四つの方法でやっていきたいということでございます。これについてはいかがでしょうか。

鈴木委員お願いします。

鈴木勇治委員

方向性はいいいんですけれども、一つ気になることがあります。市議会及び市民の理解を得ながらということ、何か市議会と市民は別々の存在みたいな感じがするんですけど。ここのところは何とかならないですか。我々は市民の代表だと思ってやっていたものですから、何かこういうふうに表現されるとちょっと別人格かなと。どうですか。

梅内総合計画課長

修正したいと思います。

宮原育子部会長

市民で。

鈴木勇治委員

市民のつもりですから。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

どうぞ。

岡本あき子委員

市民と一緒にっていくというのは本当にお願ひしたいところですし、実践していただいて感謝しているところなんです、市政だよりでいろんなご意見をいただきましたよね。もし違ったらごめんなさい、ご指摘いただいたのが、その時点で出したんだけどその後どうなっているんだという、反映されているのか実際に届いているのかどうかも含めて、それだったら市長の手紙に書いた方がよっぽどレスポンスが早いということだったんです。もしどこかの場で今こういう状況ですよというのをお知らせしているんでしたらそのとおりにお伝えしますけれども、結構慎重なものなので簡単に公表できないというのは分かるんですけども、いただいたご意見に対して今こういう状況ですよというのを、特にこれだけ広く呼びかけている施策ですし、今後10年という非常に重要なものなので、関心がある方は本当に関心を持って取り組んでいらっしゃるの、中間の状況についてのフィードバックをもうちょっとまめにされるべきじゃないかと。今こういう感じで進んでいますとか、具体的な案じゃなくても、いずれ中間案を出しますのでまたご意見をお聞かせくださいでもいいので、ちょっとそこら辺気をつけていただければと思いますのでよろしくお願いします。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

今いただいたご意見について。

梅内総合計画課長

市政だよりを通じまして、そのほかにもたくさんの意見をいただいております、それにつきまして今後検討したいもの、現在常に実施しているもの等の分類を出しておりますので、市民の数も多いということも一つございますけれども、市長への手紙のような1対1の対応というのは難しいんですが、どういう状況かということについては今公表しておりませんので、それについて中間案の整理と合わせまして、多少時期前後するかもしれませんがけれどもお示ししていきたいと思っております。

宮原育子部会長

よろしくお願いします。

ご意見が何通ぐらい集まったとか、その中でこういう意見が多かったとか、多分概要みたいなものを知らせると受け取っているなという感じが分かりますよね。

岡本あき子委員

反映される、されないは別にしても、やっぱり出した方って半年くらい経って、その後どうなっているんだという思いが正直なところだと思うので、これだけいただいていますといういろんな分野にまたがっていて、中間案で取りまとめる努力をしていますというだけでも結構だと思うので、是非せっかく貴重なご意見をいただいていますし、それこそ一緒にやりましょうって言っていることなので、よろしくお願いします。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

この5章もそういった部分で、やり取りについてこれから考えていくべきですね。

いかがですか、5章について。

小野田委員お願いします。

小野田泰明委員

いろいろあるんですけれども、まず（3）の市民協働のところは非常に重要な項目だと思いますが、それが委員会の設置にすごく短絡化されていることが気になって。そうではなくて、ワークショップとか委員会とかいろんな直接参加とか方法を多層的に組み合わせ、市民協働の方法をまずつくりあげていくと議論されてきたはずだし、お書きになった方がいいのではないのかなと思います。それで、それが確定したものではなくて常にフィードバックを繰り返して改善していき、その中で市民力というものが養成され、かつ、基本構想にも書いてある市役所の自己改革を促していくというような、そういうダイナミックな概念というふうにおかれた方が多分いいと思います。というのが一つ。

もう一つは、透明性の話を少し入れられた方がいいのではないかと思います。というのは、市民の意見を聞きながらそれに逐次対応しますということは、すごく大事なことで僕も思うのですが、それをしていると現場が消耗するんです。本当の御用聞きになってしまいます。やっぱり施策の中には、すぐ市民の要望にこたえなければいけないものもありますけれども、今は分からないけれども5年、10年、20年経つと、あの時はすごい反対したけれどもやっぱりあの時にやっておいてよかったなというものがいっぱい出てくると思います。やっぱりそういうのを含めて考えると、では独断的にやっていいかということそうではなくて、やはりお任せしていただきたい、市議会というチェック機能もあるし、その代わり透明性はきちんと担保します、御用聞きの様な形にはならないけれども透明性は担保をするので、しかるべき方法でアクセスしてくださいというふうに、余り御用聞きにならないように、長期のビジョンが反映されるような枠組みを是非入れられてはいいかと思います。

それから、この部会は僕は初めてで申しわけないのですが、都市の魅力の分野は環境の話、自然の話、都市集約の話、交通の話、経済の話、プロモーションの話で六つなので、これは絶対不可侵でこれを前提に議論しなければいけないのでし

ょうか。先程大滝先生がおっしゃっていましたが、特に経済はかなり横串に刺さってくる話で、特にここでは中小企業、付加価値の高い産業、商店街の活性化、農林業の活性化と、どの市にいても産業、経済の項目には並ぶような四つの項目が並んでいますけれども、中をよく見るとうまく書いてありますが、そうではなくてここで議論されているのは、例えばただ生産するビジネスから維持のビジネスへ、それはイノベーションもありますしコミュニティビジネスもありますということが一つ。後は高度な集積。先程おっしゃった環境ビジネスとか、大学のコラボレーションとかこの21世紀型産業をちゃんとつくっていきます、農業にしても1.5次産業で、農業とほかの産業を組み合わせで観光とかの付加価値をつくっていきます、そう多層化していき、それでもってそれをドライブする主体としての企業、特に中小企業に対しては非常にやさしくてきちんとしたコミュニケイティブな行政体をつくっていき、と組み替えた方が、今までここで議論されてきたことがすっきりするように思います。でも、そう組み替えていくと、だんだん横串になって本当に六つが維持できるかというと、経済維持すべきですけどもうちちょっと五つとか四つとかに組み替えられるような気もしてきたんですが、その辺りは不可侵なのかどうなのかということが少し気になります。前に戻ってしまってますみません。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

今、こちら5章の方は、皆さんからご意見もいただいたんですが、その次に全体を通してということでご意見をいただこうと思います。

今小野田委員からの枠組みについて。

山内企画調整局長

今の小野田委員のご指摘について、最初の市民協働の評価の部分については、まさにそういった視点のことも必要だと思います。この辺はいろいろ検討を進めるべきだと思います。

二点目の透明性の点につきましては、構成にもかかわるんですけども、資料1の「3 経営方針」の(2)の市民力の育成と新しい市民協働、16ページ辺りで市民力を高めていくのが大きな施策の方向として、基本構想の中でもいろいろ議論がございまして、市民力の育成というものから始まりまして、その市民参画の基礎となる開かれた市政、透明性という部分についてはこの辺で拾っているイメージです。第5章のそういった推進部分につきましては、推進の仕組みという部分での体系化というふうに考えておりまして、そういった構成の違いから、透明性のご指摘についてはこういう市民力の方で拾っていきたいと思っております。

更に産業・経済の関係の話なんですけれども、分野別の体系というよりは、まさに横断的な取組ということで、今お話しした資料1の12ページからの成熟社会のいわば成長戦略の根幹を成す経済・産業の活性化という部分ですね。その辺をどういう構成で組み立てるか、この辺が横断的にまとめるべきものだと思っておりますので、この辺につ

いて今のご指摘も踏まえてどういう構成ができるか検討したいと思っております。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

項目については今六つありますけれども、これも若干ご意見によっては、少し整理することもありということですか。

山内企画調整局長

それはあり得ますけれども、分野別のところについては構成を現段階で崩すのは時間の関係もありまして、最終的にどういう体系かといういろんなご指摘ご議論を踏まえて、再構築することは当然あるかと思えますけれども、現段階におきましては、分野別計画の体系としてはこういう位置づけで、今日のご指摘いただいた点を踏まえて修正すべき点は修正していくという方向にさせていただければと思っております。

小野田泰明委員

ごめんなさい、別に変えろと言っているわけではなくて、我々は基本計画の構造をきちんと理解していないから。

今のお話をお伺いすると、分野別計画は各部局がそれぞれ持ち帰ってきちんとできるように、行政の内向きの接続用のプラントであると、端子になっているという理解でいいですか。だから、今行政の中で枠組みづけされている枠組みに合わせているので、これは変えないで、ちょっとそれを想定している中で、もう少し豊かにするような議論をしてほしいということですか。そうではないのですか。

梅内総合計画課長

分野別計画につきましては、行政の組織に対応した部分というのは確かにあるんですが、この中でも複数部局の施策が混じっている部分はございます。ただ、局長の方で申し上げましたのは、中間案という段階ではなかなか時間の制約もありまして、組み換えは難しいということが一つと、先程言いましたように、ある程度行政の中で複数部局の施策を入れ込んでいくにしても、このくらいならということで今まで調整してきたというのがありますし、すぐにこれを切り替えるというのは難しいので、最終案に向けてどういう構成の変化ができるかは、検討させていただきたいということでございます。

先程の重点の方に書いている内容につきましては、都市像に基づきましてその一つ一つを都市像に応じた複数の部局に関するものを中心に盛り込んだので、より横断的になっているかと思えます。そういう意味では中間案を今月末にいったん市民の方にお示しするにあたっては、なかなかこの分野別の構成は変えにくいんですけれども、最終案に向けては、どの程度変更できるかということを検討したいと思っております。

小野田泰明委員

分かりました。

先程から先生方がおっしゃっているように、基本構想で市民力という新しいキーワードが出て、基本計画でミュージアム都市というものが出て、分野別計画は割とスタティックに横割になって、その分野別計画のどこに市民力とかミュージアム都市を読み込んだらいいのかというのが、多分当然出る疑問だと思います。それをきちんと説明しようとする、恐らく構造に踏み込まざるを得なくなりそうで、それをどこまで許容できるのかが我々もちょっと分からないし、言いつばなしでもよくないので、そちら側がどれぐらいで許容できるのかということをやっぱり率直にある程度教えていただいた方が、議論が現実的になるのかなと思います。

それから、先程の透明性の話は、アンケートとかいろいろ御用聞きにならないように透明性を担保するのでお任せくださいという意味でここに入れておいた方がいいのではないですかという意味です。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

それから、後皆さんから全体につきまして何かコメント、ご意見ございますか。

では、江成委員お願いします。

江成敬次郎委員

ちょっとどこから切り込んだらいいか分からなかったのですが、先程の大滝先生からも話が出たのですが、今回の重点政策で最初に出ているのがやっぱりミュージアム都市というものですよね。そのほかの（２）、（３）あるいは（４）辺りの言葉というのは、言ってみればどこの都市でも使われているフレーズという気がしました。したがって仙台のこの計画の一番の目玉はミュージアム都市づくりということなんだろうと感じたんです。そうであればやっぱりそれがメインということで、いろんなところから全部ミュージアム都市づくりに向かっていくという姿勢がもっと出て来ていいなという気がします。それは先程大滝先生がおっしゃったような、産業の面でもミュージアム都市というところがあってもいいということとつながるだろうと思っています。

ただ最初に出ましたけれども、ミュージアム都市という言葉がいいのかどうかについては、ちょっとまだまだいろいろ検討する必要があると思っています。ただこれは中間案ですから、市民の方々からいろんな意見が出されて、それでもっといいフレーズ、言葉が出てくればそれでいいかなとも思いますし、場合によっては、この計画を立ててそれを進めていく間にまた新たな発想が出てくる、そこまで私は許容してもいいのではないのかと思っています。

一番言いたいのは、いろんな分野から、いろんなところから「ミュージアム都市」づくりを目指すんだ、それに向かっていろんな計画をしていくんだという姿勢が、もっと出て来てしかるべきかなという気がいたしました。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

それでは時間が押しておりますので、また次に行きたいと思います。
増田委員。

増田聡委員

私もなかなか発言するタイミングが難しかったのですけれども。

基本構想の四つの都市像を重点政策の から と分野別のところの関係がやはりいまひとつクリアでないです。どう説明するのがいいか、なかなか悩んでいるんですけども、やはりその分野別計画のときにも、この都市像のここを強化するためにこれをやっているという説明がやっぱり必要なんじゃないのかなと思います。

それと、先程ミュージアム都市というのが出ていましたが、それ以下の重点政策の 、 にも位置づけがややランクが違うというのか、次元が違うという感じもします。特に の持続可能な都市づくりという重点政策は、施策としてはあるんですけども、その後に書かれている空間形成の道路工事とか、土地利用のゾーンとか、これが重点施策というよりは施策をつくるための基本的なフレームなので、ここに置いておくのが何となく収まり悪いという感じはしないでもないところです。ただ、どう直せばいいのかというのは、代替案の提起というところまでいっておりません。というわけでその辺のコメントまで。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

それじゃあ、大草委員から何かコメントありますか。

大草芳江委員

皆さんがおっしゃっていることと重なると思うんですけども、今回その一番の重点政策としてミュージアム都市という単語があるのですが、何かやっぱりミュージアム都市という単語から自分が感じる印象としては、やっぱり何か既にあるものをとりあえず受け身でこう受け入れるみたいな、何かすごく受け身的な印象がすごくあるキーワードだなと率直に感じたんです。皆さんもいろいろおっしゃっていましたが、そうではなくてやっぱり市民一人一人が何が価値かというところを見いだして行って、形にしていってところから本当の市民力というスタートがあると思うんですけど、少なくともミュージアム都市と言われたときに、先程も何を目的にされているか話がありましたけど、とりあえず行って知識を身につけてちょっとあたればいいんじゃないかなぐらいの、ちょっと消極的な感じに正直聞こえました。ですから、そもそもなんでこれはここに来たのかという事を考え直していたというか、あれどういうふうに言っていたかなという自分は考えていたんですけども、これを掲げるにあたってそもそもどういう意図があるかというところが、何かもっとその能動的に位置づける要素がなければ重点政策として特に掲げている意味がなんか感じられない、そういうのが伝わってこないというか、余りわくわくしないなと正直思いました。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

岡本あき子委員

今の話に関連するのですが、前回の部会と比べて、最初にここにすればよかったのですが、ミュージアム都市づくりというのが前回では重点プロジェクトの三番目に入るんですよ。それが今回トップにきたというその根拠の説明がちょっと最初にうたってなかったのかなと思うので、なおさら私たち自身も困惑している部分があるのかなというのがあるのと、ほかの委員の方がおっしゃったように、基本構想では市民力というのが前面に出していたのが、重点政策の中で市民力という言葉が逆にいうとまったく触れられていないんです。だから、基本構想を受けての基本計画の政策だっていうことは、市民力を最大限に生かすためにそういうのがあるという意味でいうと、もうちょっと市民力という言葉使っていいんじゃないのかなと、今意識して見ていたのですが、市民力があって重点政策があってそれを受けての分野別だという、こう一環した部分がもうちょっと分かりやすくされていていいのかなと思いましたので、ミュージアム都市づくりという部分の一番トップに上がってきたその根拠というものを、やっぱり確認させていただければと思います。

宮原育子部会長

これはお答えありますか。

梅内総合計画課長

何点かあるんですけども、一つは先程の市民力という部分で、ミュージアム都市というのが受け身でまだちょっと不十分な部分がありますが、市民一人一人の学びというところを都市づくりにつなげるための施策として構築したいという思いがございまして、今回その市民力を重点におくという基本構想の考え方を受けていいんじゃないかという点が一つございます。また、都市像でもそういったところから一番上に学びの都というものを掲げているところでございますけれども、それと連動させたかったと考えてこれを一番上にしております。ただ、いろいろな部分でまだ表現等分かりにくいとか、未熟な部分があるのかなと思って伺っておりました。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

それでは、一応今日時間がない中で、皆さんからたくさんのご意見をいただきまして、多分中間案のところまでこれを全部反映するというのは難しくて、むしろ今日いただいたご意見ってすごくその先の中間案以降、いろんな市民の方、有識者の方、いろいろ各区のご意見をいただいた中で、もっと大切になってくると思いますので、これを踏まえながらまた修正をしていくということになるかと思います。とりあえずその中間案に向けて、修正できる部分は修正していただくということで、是非進めていただきたいと

思います。

それでまだ、実は資料二つご説明をさせていただきたいのがございますので、事務局の方から簡単にご説明お願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは簡単にご説明させていただきます。

参考資料１ 仙台市基本構想（中間案）でございます。こちらは先日開催いたしました起草委員会でのご意見を踏まえまして、最終的に本日ご出席の大滝委員長と調整をした内容でございます。こちらにつきましても中間案ということでございますので、こちらを市民の皆様へ提示をいたしましてご意見をいただいた上、今後起草委員会、審議会の方で中身を詰めていきたいと考えているものでございます。

また、参考資料２ということで、今回きめ細かな地域政策というのを都市経営の重点の一番に掲げておりますけれども、区別計画、21プランでは各区に３ページ程度のボリュームでしたが、今回は区を中心に様々な関係者、関係団体のご意見を聞きながら今まとめているところでございます。こちらにつきましては、審議会の方でもお話し上げましたが、27日の審議会に区の方からこういった形で中間案をまとめましたというものをご報告する予定でございますが、かなりページが増えたこともございまして、ちょっと早いんですが部会の方でも現在の進捗状況を報告をしたいと思って、本日参考資料としてお出ししたものでございます。ちょっと厚いものですから、ご説明省略させていただきますけれども、ご高覧いただければと思っております。

以上でございます。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

今日は起草委員会の委員長の大滝委員もご出席いただいておりますので、できましたら参考資料１の基本構想案につきまして、補足などを一言コメントをお願いしたいと思います。

大滝精一委員

はい、この参考資料１に書かれているとおりの構成になっております。そんなに長いものではありませんし、今日検討しました基本計画を始めとするベースをつくっているということですので、最終的に特に２ページ以降に出てきます仙台の都市像という、先程から議論になっていきます四つの都市像というものをベースにしてつくっているということがあります。ただ、今回のこの基本構想（中間案）では、特に１ページの「２ 仙台の未来を創る市民力」、先程から何度も出ております市民力というキーワードになっていまして、その市民力というものの内容ですとか、それが力を発揮する場ですとか、それから市民力自体を育てていくとか発展していくことと、今後10年の仙台のまちづくりというものが非常に密接にかかわっているということを相当丁寧に説明しているというか、そこがこれまでとは大きく違うところであると思っております。したがって、１

ページの「２ 仙台の未来を創る市民力」の「（１） 仙台の市民力」というところは主にコミュニティとか地域でつくっていくものと、それから少し地域から離れてテーマというようなもので結びついていく市民力、それから次の２ページにきて、そういう市民意識そのものをはぐくむ活動というものがどういうものであるかというようなことを受けて、市民力の育成と発展というようなものと、仙台の未来のありようというものをいろんな意味で結びつけていくというか、車の両輪のように動いていくというか、そういうことを特に強調している基本構想（中間案）になっているということを申し上げたいと思います。

以上です。

宮原育子部会長

大滝委員長ありがとうございました。

それでは、最後に今後の流れについてまとめをしたいと思います。今後の作業の流れとしましては、どのようになりますか。事務局の方からご紹介ください。

梅内総合計画課長

はい、先程来お話をさせていただいておりますけれども、次回は来週金曜日27日が第5回の審議会でございます。16時30分から第一委員会室で開催となります。それに向けまして本日のご意見を踏まえて、修正させていただきたいと思っておりますけれども、本日のご意見の中でちょっと表現を訂正するもの、また、構成を踏まえて庁内で検討が必要なもの等ございますことから、中間案ということではいったん市民の皆さんのご意見をうかがうものを確定させなければなりませんので、この点につきまして事務局の方で預らせていたたぎまして、修正を加えて修正内容につきまして宮原部会長と相談をさせていただいた上で、都市の魅力部会の中間案ということで一端ご意見をまとめたいと思っております。それを27日審議会に報告いたしまして、全体を中間案としてまとめて市民意見をうかがい、また、その後10月、11月の部会で市民意見、いただいた市民意見を踏まえながら最終的に総合計画全体に反映させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

ただ今の事務局からお話がありましたとおり、中間案として27日の審議会へ提出する資料につきましては、部会長の方に確認を任せたいということでございますけれども、それでよろしいでしょうか。

（はいの声あり）

宮原育子部会長

ありがとうございます。

今日はたくさん大切なご意見をいただけてまして、私もやっぱり感じているのは、全体時にシュリンクする現実はあるんだけど、だけどやっぱりこの未来を変えていくときに、いろんな知恵を働かせて組み合わせで新しいものを仙台から生み出していくという、そういったエネルギーを感じさせるような、やはりそういう計画になっていくことが、市民の人たちもすごくこう協力したり自分たちができることを見つけるきっかけになるのかなと思うので、そこら辺の姿勢が感じられるような形で最終的には整っていくといいのかなと思いましたので、中間案ではなかなかそこまで皆さんのご意見反映できるか具体的にできるか分かりませんが、ただ大切な指摘がたくさんございましたので、なるべく盛り込んでいきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(2) その他

宮原育子部会長

最後にその他ですけれども、何かございますか。委員さんの方からは何かございますか。

事務局の方は特によろしいですか。

梅内総合計画課長

特にございません。

3 閉会

宮原育子部会長

それでは、本日の議事は以上で終了いたします。最後に事務局の方から連絡はございますか。

梅内総合計画課長

特にございません。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして本日の部会を終了させていただきます。

皆さんご意見どうもありがとうございました。